

神奈川県鉄道輸送力増強促進会議 平成30年度 要望・回答

東日本旅客鉄道 根岸線

I 輸送力増強

1 輸送計画の改善

番号	要望事項	要望内容	回答
(1)	桜木町駅折返しとなっている列車の磯子駅までの延長運転	朝夕の時間帯において、一部、桜木町駅止まりの列車がありますので、利便性向上を図るため磯子駅までの運転を要望します。	2016年3月ダイヤ改正にて、夕通勤時間帯に磯子駅までの1往復を拡大しましたほか、2018年3月ダイヤ改正において朝通勤時間帯の桜木町行きを2本磯子行きに延伸し利便性の向上を図りました。桜木町駅止まりの磯子駅までの延長につきましては、引き続きお客さまのご利用状況を見極めつつ検討してまいります。

II 利便性向上 1 駅施設等の整備

番号	要望事項	要望内容	回答
(1)	関内駅の利用者の安全性確保、利便性向上を図るための駅施設等の整備	JR関内駅は、市庁舎や横浜スタジアムの最寄駅であるとともに、横浜都心部の玄関口の1つとして、一日の乗降客数が約11万人(平成29年度実績)と多くの方々が利用されています。 北口では、29年4月に新駅舎が供用開始するとともに、30年1月にはカフェ、コンビニエンス・ストア等の商業施設がオープンし、4月には保育施設が開園しました。 また、南口周辺では、平成32年6月の市庁舎移転に向け、横浜文化体育館の再整備や現市庁舎街区の活用など、新たなまちづくりの検討を進めています。 これに合わせて、南口のバリアフリー施設の整備などの駅舎改良について要望するとともに、まちづくりへのご協力をお願いいたします。	関内駅北口のバリアフリー施設等の整備につきましては、JR関内駅北口整備協議会が立ち上がり、2014年に着手し、2017年の4月に使用開始をいたしました。また2018年度末には、ホームの拡幅工事が完成し、更なる安全確保に取り組みました。 また、関内駅南口では市庁舎移転等の新たなまちづくりについては駅舎改良等を含め、関係自治体と連携し検討を進めてまいりたいと考えております。

番号	要望事項	要望内容	回答
(2)	新杉田駅の混雑対策	<p>新杉田駅は、一日あたりの乗降客数が約7万7千人(平成29年度実績)と、利用者が多い駅です。</p> <p>駅構内及び高架下に設置されているシーサイドライン・京急杉田駅方面との連絡通路は朝夕ラッシュ時には乗降客であふれ、著しく混雑している状況が見受けられます。</p> <p>については、利用者の安全性の確保の点からも、適切な混雑対策を講じるよう要望いたします。</p>	<p>駅構内及び連絡通路の混雑解消につきましては、お客さまの流動を把握すると共に、関係者や自治体等と連携し改善の必要性について検討してまいります。</p>
(3)	桜木町駅の利用者の安全性確保、利便性向上を図るための新改札口等の整備	<p>JR桜木町駅は、一日の乗降客数が約14万人(平成29年度実績)と多くの方々が利用しており、今後、北仲通地区の計画開発が進むことで、来訪者、就業者等の相当な増加が見込まれることから、利用者の安全性確保や利便性向上を図ることが不可欠です。</p> <p>このようなことから、駅南端部への新改札口設置について、貴社と連携して事業を進めていますが、平成32年度早期の供用に向けて引き続き着実な事業推進をお願いいたします。</p> <p>また、新改札口は、野毛・北仲通・馬車道地区の新たな玄関口となることから、高齢者、障害者、乳幼児連れの保護者等に配慮した施設整備を行うとともに、デザイン性の高い駅舎にするなど、観光で訪れた方々や地域の皆さまにも将来に渡って愛される駅となるよう鉄道事業者としてのご協力をお願いいたします。</p>	<p>弊社としても北仲通地区の開発に伴ってJR桜木町駅利用者の増加が見込まれることは予想しており、横浜市と協議を進めてまいりました。</p> <p>この度、横浜市との協議が整い工事に着手することとなりました。新改札口の供用については2020年度を目指して、今後本格的に事業を推進してまいります。</p> <p>桜木町駅は初代横浜駅ということもあり、当時の面影を採り入れたデザインにするなど、地域の皆さまにも愛される駅とすべく、複合ビルを含めて検討を行っているところです。</p>
(4)	根岸線全駅への可動式ホーム柵の設置(継続)	<p>平成30年3月、東京圏における可動式ホーム柵の設置について、主要駅は平成44年度までに、うち、条件が整った駅については平成37年度までに整備するとの公式発表が貴社からありました。</p> <p>既に鶴見駅、桜木町駅(1・4番線)で使用開始となり、東神奈川駅、横浜駅では工事が進められていることに感謝します。</p> <p>引き続き、利用者の多い桜木町駅(2・3番線)、関内駅、大船駅、視覚障害者利用施設の最寄駅となる山手駅、学生の利用が多い石川町駅、乗換駅となる新杉田駅についても、整備計画の前倒しが図られるよう要望いたします。</p>	<p>2018年3月6日付けプレスで公表しております「東京圏におけるホームドアの整備促進について」に基づき、東京圏在来線の主要路線について、乗降10万人以上の駅等を優先し、2032年度末頃までの整備を目指して行きます。2018年3月に鶴見駅、同8月に桜木町駅、同12月に東神奈川駅にホームドアを設置し供用開始となっておりますが、今後も国や自治体からのご協力をいただき、事業者と三位一体となって、ホームドア整備を推進いたします。また、ホームドアの形式につきましても各駅の特徴を考慮しながら検討してまいりますので、併せて自治体のご協力をお願いいたします。</p>